

第2次加西市観光推進基本計画

— 加西観光まちづくり劇場 フラワー&ピースフル —

(案)

2017年(平成29年)12月

目次

第1章 計画策定にあたって	1
1 計画策定の趣旨.....	1
2 計画の位置づけ.....	1
3 計画期間.....	1
第2章 本市観光に関わる現状と課題	2
1 本市観光に関わる現状と動向.....	2
2 第1次計画の評価.....	8
3 市内観光関連団体等の意向.....	10
4 本市観光を取り巻く主な動向.....	11
5 本市観光に関わる主な課題.....	12
第3章 本市の観光振興の将来像と戦略	13
1 本市の観光がめざす将来像.....	13
2 成果指標.....	14
3 将来像実現のための戦略.....	15
第4章 戦略ごとの取組内容	16
1 戦略1 加西らしい観光まちづくりの推進.....	16
2 戦略2 観光まちづくり人材の育成と体制の充実.....	18
3 戦略3 観光まちづくりで「潤う」ための仕掛けづくり.....	19
4 戦略4 観光まちづくりを支えるインフラの整備.....	20
第5章 重点プロジェクト	21
1 鶉野飛行場跡地の活用推進プロジェクト.....	21
2 北条鉄道の活用推進プロジェクト.....	23
3 フラワーツーリズム推進プロジェクト.....	25
4 地域が潤う仕掛けづくりプロジェクト.....	27
5 加西を楽しむ体験型プログラム充実プロジェクト.....	29
第6章 計画の推進に向けて	30
1 推進体制の仕組み.....	30
2 市内観光関連団体等との連携・協働.....	30

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

本市では、2013年度～2017年度（平成25年度～平成29年度）を計画期間とした「加西市観光推進基本計画」に基づき、「六つの価値創造に取り組み 深みと品格のある・加西を実現する」を基本コンセプトに、計画に基づいた観光施策を展開してまいりました。

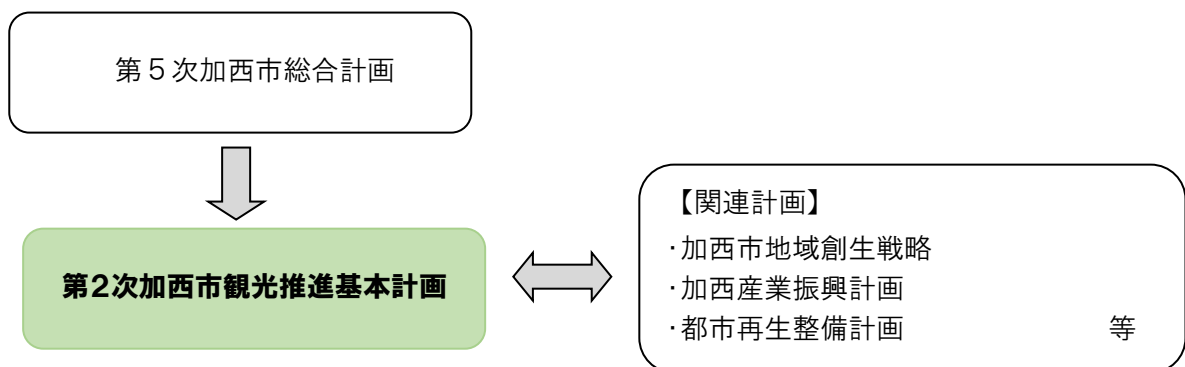
この間、国では「観光立国推進基本計画」（2017年度～2020年度（平成29年度～平成32年度））及び兵庫県「ひょうごツーリズム戦略」（2017年度～2019年度（平成29年度～平成31年度））の改定が行われ、観光行政の大きな見直しが図られています。

また、2016年（平成28年）ついに訪日外国人観光客数が2,000万人を突破しました。2020年（平成32年）に東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、訪日外国人旅行者数はさらに増加することが予想される中、都市部だけでなく地方へ呼びこむための取組の検討が必要です。

こうした変化を捉えながら、加西市観光推進基本計画が2017年度（平成29年度）に満了を迎えることを踏まえ、2022年度（平成34年度）を目標年次とした「第2次加西市観光推進基本計画」を策定しました。

2 計画の位置づけ

計画の策定にあたっては、「第5次加西市総合計画」を上位計画として、観光関連計画との整合性を図りながら、実施するものです。



3 計画期間

計画期間は、2018年度～2022年度（平成30年度～平成34年度）までの5年間とします。

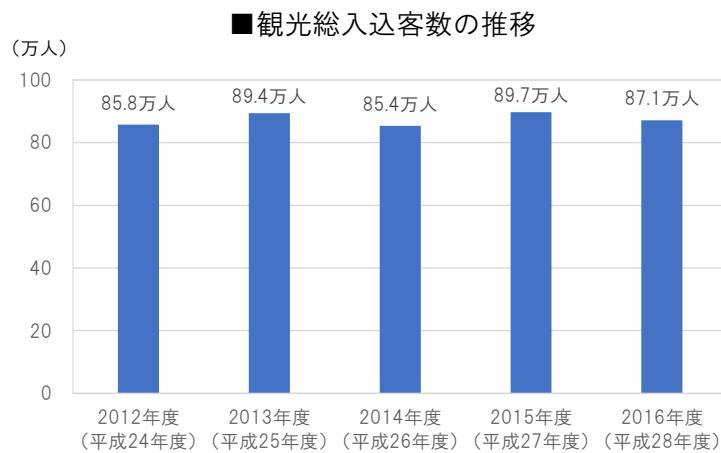
なお、計画期間中に状況の変化などが生じた場合は、計画期間内においても、必要に応じて見直しを図ります。

第2章 本市観光に関わる現状と課題

1 本市観光に関わる現状と動向

①観光総入込客数

- ・観光総入込客数は毎年度80万人を上回っており、2016年度（平成28年度）は87.1万人となっています。
- ・周辺市町と比較すると、入込客数は最も少なくなっていますが、周辺市町への来訪者を加西市へ呼び込むことが期待できます。
- ・四半期別の総入込客数は、どの年度も「4～6月」の春季が最も多くなっています。



資料:加西市提供

■加西市と周辺市町の観光総入込客数

(単位:万人)

	2012年度 (平成24年度)	2013年度 (平成25年度)	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)
加西市	85.8	89.4	85.4	89.7	87.1
西脇市	121.2	114.8	110.6	127.0	127.7
三木市	563.5	557.6	496.6	492.8	497.4
小野市	227.5	231.6	237.6	244.8	247.6
加東市	324.4	315.7	343.1	348.0	335.7
多可町	99.7	107.8	115.2	115.3	115.9
姫路市	802.8	892.2	903.8	1,181.3	1,026.6

※2016年度(平成28年度)の数値は、いずれも暫定値

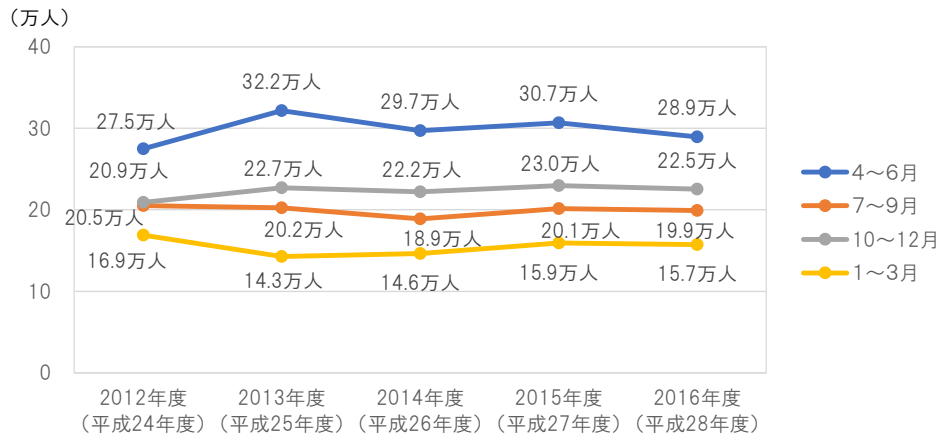
資料:兵庫県観光客動態調査

■加西市と周辺市町の観光総入込客数の指数

	2012年度 (平成24年度)	2013年度 (平成25年度)	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)
加西市	100	104	100	105	102
西脇市	100	95	91	105	105
三木市	100	99	88	87	88
小野市	100	102	104	108	109
加東市	100	97	106	107	103
多可町	100	108	115	116	116
姫路市	100	111	113	147	128

※2012年度(平成24年度)を基準に年度ごとに算出

■四半期別の総入込客数の推移

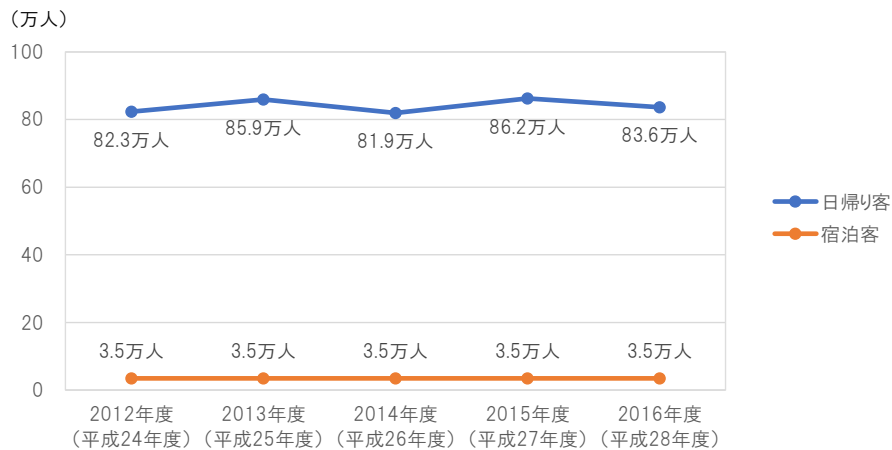


※2016年度(平成28年度)の数値は暫定値

資料: 兵庫県観光客動態調査

②日帰り・宿泊別入込客数

・2016年度(平成28年度)の総入込客数のうち、日帰り客は約9割を占めており、日帰り観光が中心となっています。

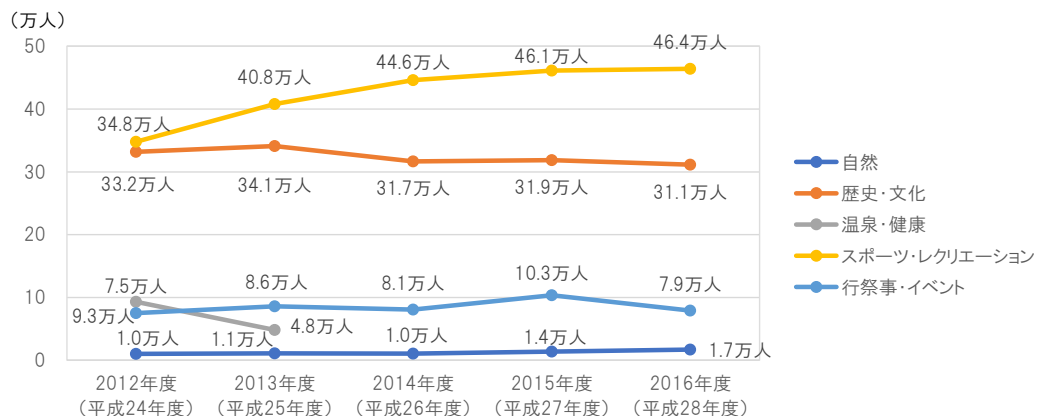


※2016年度(平成28年度)の数値は暫定値

資料: 兵庫県観光客動態調査

③目的別入込客数

・目的別入込客数は、「スポーツ・レクリエーション」が増加傾向にあり、2016年度(平成28年度)には約46.4万人となっています。



※2016年度(平成28年度)の数値は暫定値

資料: 兵庫県観光客動態調査

④ 観光施設別入込客数

・観光施設別にみると、2016年度（平成28年度）の入込客数客数は「兵庫県立フラワーセンター」が約22.5万人と市内で最も多くなっています。

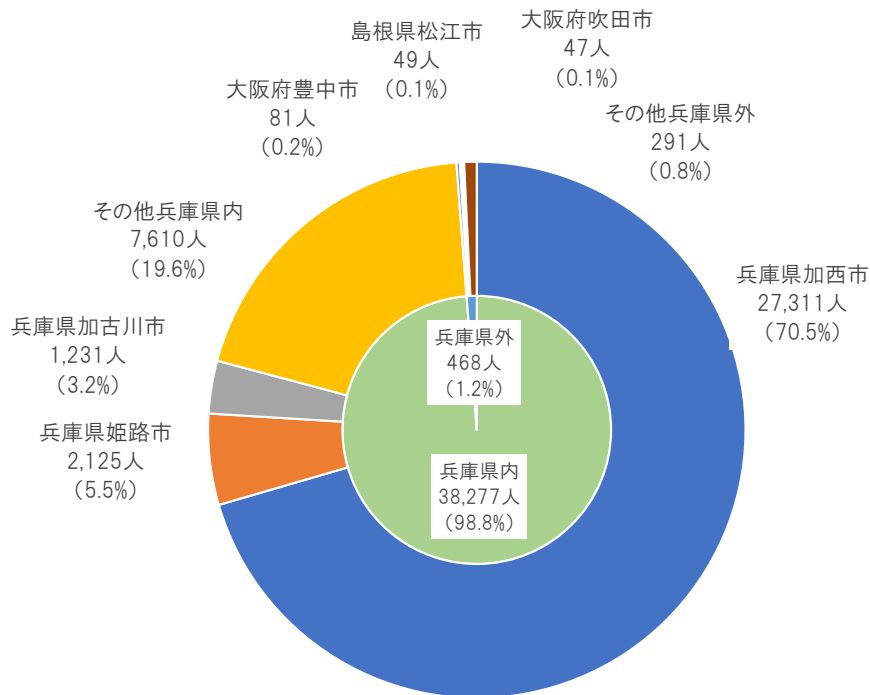
観光施設名	観光入込客数(人/年)					
	2012年度 (平成24年度)	2013年度 (平成25年度)	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	
法華山一乗寺	95,000	79,000	45,214	45,501	43,859	
五百羅漢	8,855	8,579	11,037	10,478	10,202	
玉丘史跡公園	34,230	30,257	35,458	48,780	31,553	
根日女の湯	93,602	47,701	-	-	-	
いこいの村 はりま	50,564	50,908	51,019	54,586	55,862	
兵庫県立フラワーセンター	193,552	223,496	225,057	213,819	225,672	
丸山総合公園	23,225	20,282	19,039	16,492	22,858	
古法華自然公園	46,980	34,840	48,086	68,115	62,646	
NPO法人原始人の会 都市農村交流施設	9,897	10,866	10,455	13,839	16,776	
青野運動公苑	69,987	69,797	70,390	67,621	68,138	
勤労者体育センター	-	69,069	84,629	79,118	83,896	
加西カントリークラブ	57,532	59,081	51,438	56,681	56,897	
タカガワオーセントゴルフ倶楽部	43,684	39,164	42,213	45,423	42,149	
播州東洋ゴルフ倶楽部	31,269	40,519	40,868	43,610	45,716	
加西インターカントリークラブ	25,126	24,675	38,307	29,697	25,902	
北条節句まつり	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	
い ベ ン ト	かさい夏っ彩夢フェスタ	30,000	-	-	-	-
加西サイサイまつり	-	23,000	16,000	25,000	25,000	
北条の宿はくらんかい	15,000	25,000	28,000	25,000	15,000	
じば産物産展	-	8,000	6,500	8,800	9,000	
播磨風土記1300年	-	-	-	14,500	-	
合計	858,503	894,234	853,710	897,060	871,126	

※2016年度(平成28年度)の数値は暫定値

資料:加西市提供

⑤滞在人口

- ・滞在人口数の合計は、38,745人であり、そのうち県内の滞在人口は38,277人、県外の滞在人口は468人となっており、全体の1.2%のみとなっています。
- ・県内の滞在人口のうち、休日でも市民の滞在割合が7割と高くなっています。市外からは、姫路市、加古川市からの来訪が多くなっています。



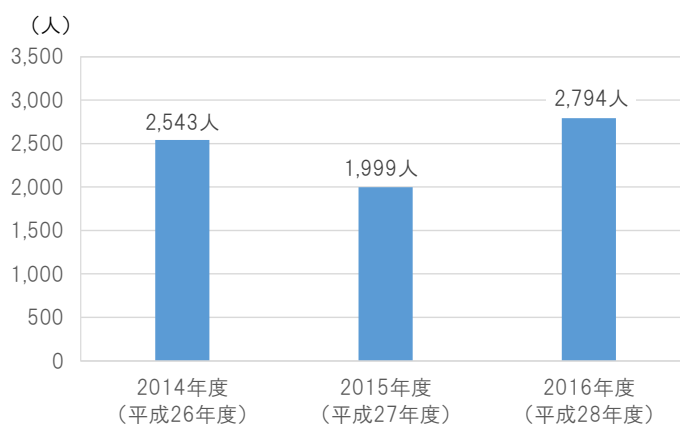
※滞在人口とは、指定地域の指定時間に滞在していた人数の月間平均値を表している

※滞在人口数は、2016年(平成28年)4月の休日、14時時点の数値

資料：地域経済分析システム「RESAS」

⑥観光案内所利用者数

- ・観光案内所利用者数は、2016年度（平成28年度）が約2,800人と最も多くなっています。

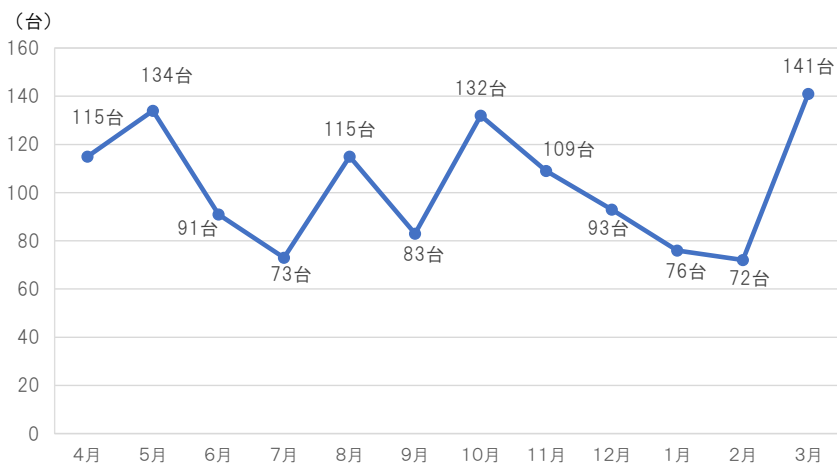


資料：加西市観光まちづくり協会提供資料

⑦レンタサイクルの利用台数

- ・市内では北条鉄道北条町駅、北条鉄道法華口駅、勤労者体育センターの3か所で利用できます。
- ・2016年度（平成28年度）のレンタサイクルの利用台数は、北条町駅が1,234台と最も多く、北条鉄道法華口駅が130台、勤労者体育センターが54台となっています。
- ・2016年度（平成28年度）の北条町駅での利用を月別にみると、3月が最も多く141台となっています。

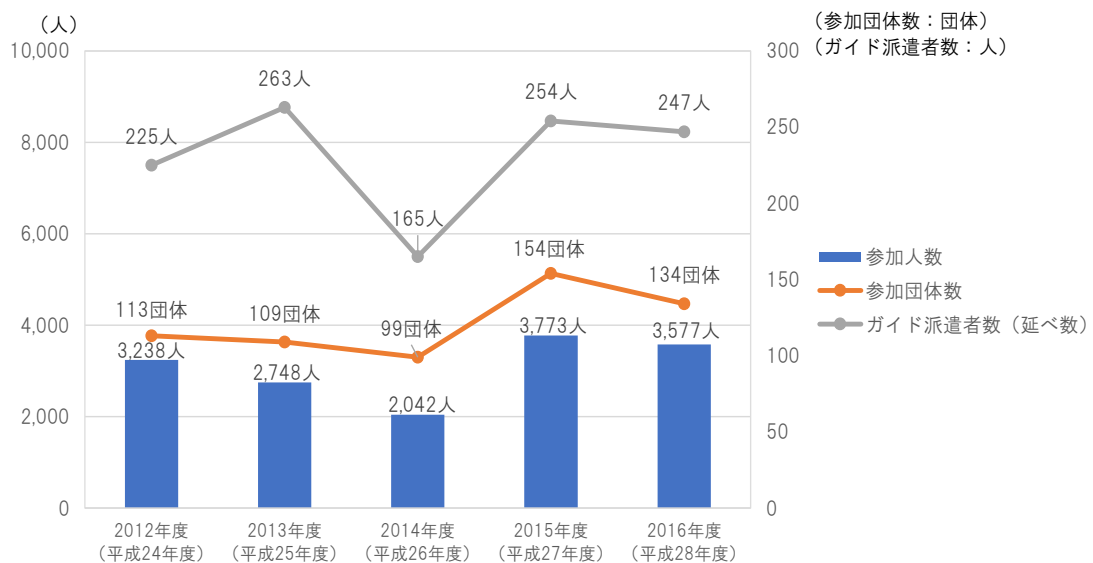
■2016年度（平成28年度）の北条町駅の月別貸出台数



資料：北条鉄道(株)提供資料

⑧加西市歴史街道ボランティアガイドの派遣実績

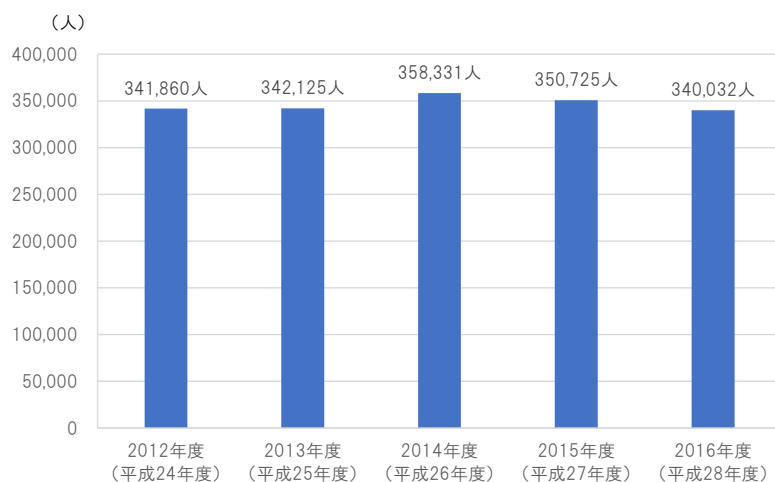
- ・2015年度（平成27年度）の参加団体数が154団体、参加人数3,773人と最も多くなっています。



資料：加西市観光まちづくり協会提供

⑨北条鉄道の乗降客数

・2016年度（平成28年度）の乗降客数は34万32人で、そのうち定期利用客が19万500人、定期外利用客が14万9,532人となっています。



資料：北条鉄道㈱提供資料

⑩かさい観光Naviサイトのアクセス数

・「かさい観光Navi」は、市内のグルメや見所、イベント情報等の観光情報を紹介するサイトです。アクセス数は、2013年度（平成25年度）を最高に減少しています。

	2013年度 (平成25年度)	2014年度 (平成26年度)	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)
全体PV	279,883	236,859	211,583	189,380
指数	100	85	76	68

資料：加西市提供

2 第1次計画の評価

2013年(平成25年)3月に初めて加西市観光推進基本計画を策定し、施策を推進しました。特に、下記の重点プロジェクトを中心に進め、事業創設だけでなく、おもてなしの体制づくり、組織強化についても、計画に位置づけています。

■加西市観光推進基本計画の重点プロジェクト

重点プロジェクト	内容
「播磨国風土記を活かした100年続くまちづくり」	<p>2013年度(平成25年度)は、風土記編纂の官命が発表されてから1300年にあたり、通説ではその4年後までに「播磨国風土記」が編纂されたといわれている。遅くみると2017年(平成29年)が1300年となる。この播磨国風土記編纂1300年に向けて、市民と市民の交流、来訪者と市民との交流、来訪者と来訪者同士の交流を生み出すさまざまな取組みを展開する。</p> <p>まずは1400年に向けて、「加西風土記」の編纂をはじめ、住民が再度自分たちの地域にある資源を掘り起し、再確認し、磨きあげる作業を行う。</p>
「加西喝采ブランド事業」の創設	<p>加西の旬を活かした特産物、市民が自慢したいモノ(地域、行事、文化、生活習慣、人物、食)などを、加西市観光まちづくり協会が「加西喝采ブランド」として認定し、積極的に発信する。</p>
「ふるさと加西応援隊」の結成とPR活動の展開	<p>加西市民が加西市に自信と誇りを持ち、市民自らがトップセールスマン、観光大使となって加西市をPRする。そのために、加西市観光まちづくり協会が「ふるさと加西応援隊」を結成し、隊員を公募する。「ふるさと加西応援隊」は座学やワークショップへの参加を経て、観光名刺などを交付し、PR活動を展開する。</p>
「着地型観光プログラム」の提供	<p>地域コミュニティが主体となって交流文化活動を行う市民プラットフォームをつくり、市民参画を経て、加西の自然、歴史、旬など多くの地域資源を組み合わせ、時速4kmのまちあるきプログラムや、豊富な農産物を活かした食のプログラム、宿泊して加西をゆっくり楽しむプログラム、都会と農村の交流プログラム等の着地型プログラムを開発し、市民が訪れる人たちにおもてなしを提供する体制を整える。</p>
「加西市観光まちづくり協会」の組織強化	<p>現在は加西市観光まちづくり協会の事務局を市がもっているが、今後は市や商工会議所から独立した組織として、組織強化を図ることを想定する。そして、加西市観光まちづくり協会を核として積極的に市民参画を図り、観光まちづくりの取組みを推進する。また、新たな活動家の人材育成にも取り組む。</p>

■加西市観光推進基本計画の成果・課題

5つの重点プロジェクトについては、一定の成果が得られました。特に以下に記載の4点があげられます。一方で主な課題としては、2点あげられます。

【成果】

①着地型観光プログラム「かさいまちあそび」の開催

「かさいまちあそび」は、「加西の魅力発見」、「加西を巡り、楽しむ」をテーマに、毎年秋に市内各所で約40の体験型プログラムを開催するイベントです。地域の団体・個人等が主体となり、企画・運営されており、このイベントをきっかけに事業者自身が独自のプログラムを実施するなど、市内でも広がりを見せています。

②「加西喝采ブランド事業」の推進

市民から推薦のあったお土産30品目を加西市観光まちづくり協会が「加西喝采みやげ」として認定、ガイドブックを作成し、市内にどのようなお土産があるのかが把握できるようになりました。市内イベント、物産展へ出店するなど、「加西喝采みやげ」のPRに努めています。

③活動母体の形成

観光研究会は、加西市観光まちづくり協会の内部組織として、市内の観光関連団体等で組織されており、月1回定例会議を行い、継続した観光施策の検討及び実施を行っています。市内観光関連団体の連携の促進が期待できます。

④播磨国風土記事業の推進

2015年度（平成27年度）に開催した加西市播磨国風土記1300年祭で「播磨国風土記」に記されている「根日女伝説」を題材に、狂言師の野村萬斎氏監修、指導の狂言「根日女」及び哲学者の梅原猛氏書き下ろしの能「針間」が誕生しました。特に狂言においては、次世代を担う小学高学年で結成する「加西市こども狂言塾」が発足し、ふるさと加西に残る根日女伝承を題材にした新作狂言「根日女」を演じ、狂言という日本の伝統芸能のかたちで現代に蘇らせ、その伝承を未来に語り継ごうとしています。その活動をサポートするための「加西市こども狂言塾応援隊」も発足し、加西の新たな伝承芸能が生まれました。

【課題】

①儲かる仕組みづくり

着地型観光プログラム「かさいまちあそび」、「加西喝采みやげ」等の地域資源を活かし、「観光（産業）」として儲かる仕組みづくりが必要です。また、加西名物、お土産の販売拠点づくりなど、観光客の市内消費を促すことが重要です。

②観光まちづくり人材の育成・拡大

まち活交流会など、まちづくり団体の交流会を行うなど、今後の本市の観光まちづくりを担う人材が表面化してきています。今後、これらの人材を育成することでまちづくり団体の組織強化を図るとともに、市内での観光の担い手を増やしていくことが重要です。

3 市内観光関連団体等の意向

本市の観光の現状や今後の方向性等を把握するために、市内観光関連団体等にヒアリング調査を行いました。その主な意見は以下のとおりです。

【現状】

- 地域おこし協力隊がきっかけで市内の若者の活動が活発化している。「まち活ゆめ広場」では、参加者の平均年齢が20～30代であり、参加者どうしの横のつながりができている。
- 個々の市民団体の活動も活発であるが、団体間での情報共有ができておらず、団体どうしの連携が課題である。
- 「かさいまちあそび」をきっかけに、主催者独自でのプログラム実施がでてきており、着地型観光が定着しつつある。
- 小学校区ごとにある地域づくり推進母体「ふるさと創造会議」での活動を充実させるとともに、校区間での連携を図りたい。
- 鶉野飛行場跡地周辺は、地区整備を施行中であり、将来的にはミュージアム、地域活性化施設の整備に取り組みたい。
- 本市は代表的なお土産がなく、販売場所も少ない。また、農産物直売所はあるが、午後には商品が少なくなっている。
- 市内の観光地を巡る移動手段（公共交通）が乏しい。

【今後のあり方】

- ボランティアガイドの高齢化が進んでいるため、若い世代のガイドを育成したい。
- 市内の観光地を周遊する取組が必要ではないか。
- 本市をさらにPRするために、市キャラクター「ねっぴ〜」の活用、広報誌のデザイン変更等を検討してはどうか。
- 市内観光では、フラワーセンター、北条鉄道等との連携、トレイルラン、産業観光、広域観光等の検討が必要である。

4 本市観光を取り巻く主な動向

観光振興に関連する主な動向は以下のとおりです。

①古代鏡展示館の新設

2017年（平成29年）4月に加西市在住の美術品蒐集家のコレクションの一部が展示された「古代鏡展示館」が兵庫県立フラワーセンター内に開設されました。300面を超える古代中国鏡を中心に、歴史的、美術的に高い価値を有する世界的な銅鏡コレクションです。

②鵜野飛行場跡地の整備・活用への動き

鵜野飛行場跡地は、第二次世界大戦中に建設された飛行場跡です。2016年（平成28年）6月に財務省から所有権、管理権が本市へ移行しました。本市は都市再生整備計画を策定し、戦争遺産として平和学習や観光に活用するほか、防災拠点や地域住民の憩いの場としての整備を進めています。

③宿泊施設の開業

2018年（平成30年）に市営駐車場跡地（北条町栗田）にルートインホテルが開業予定です。鉄筋コンクリート造9階建てのビジネスホテルタイプで、全室152室。延べ床面積は約3,900平方メートルです。

また、市内宿泊施設である「いこいの村はりま」が2017年（平成29年）5月から耐震・改修工事を行っており、2018年（平成30年）4月1日にリニューアルオープン予定です。

④世界的なスポーツイベントの開催

国際マスターズゲームズ協会（IMGA）が4年ごとに主宰する生涯スポーツの国際総合競技大会「ワールドマスターズゲームズ2021」が2021年（平成33年）にアジア初の日本での開催が決定しています。加西市ではテニス競技が青野運動公苑アオノテニスクラブで行われる予定です。

5 本市観光に関わる主な課題

本市の観光を取り巻く現状を踏まえ、観光に関する主な課題は以下のとおりです。

① 現行計画路線の充実・継続

現行計画で築いてきた観光資源（かさいまちあそび、加西喝采ブランド等）をさらに充実させ、継続させることが必要です。

② 育ってきた人材の強化、担い手のさらなる拡大

観光の担い手の高齢化、後継者不足が課題であり、ここ数年で活動が活発化している市内の若者をさらに増やしていくとともに、個々の市民団体の連携を図ることが必要です。

③ 「地域が潤う」チャレンジ

観光を通して、地域経済が潤い、観光事業が継続する仕組みづくりが必要です。また、観光関連団体だけでなく、市内事業者との連携による取組の拡大が求められます。

④ 「新しい観光」へのチャレンジ

鶉野飛行場跡地一帯、インバウンド観光及びサイクルツーリズムなど、本市の観光をめぐる新たな動きへの対応が必要です。

第3章 本市の観光振興の将来像と戦略

1 本市の観光がめざす将来像

(1)基本的な考え方

2013年（平成25年度）から着手した第1次計画では、「住民主体」により、「地域まるごと観光まちづくり」を推進してきた結果、着地型観光プログラムの開催、加西喝采プログラム事業の推進など、一定の成果がありました。また、ここ数年で地域おこし協力隊、市内の若者等が地域づくりに関わっており、今後の本市の観光を担う観光まちづくり人材が増加しています。

それを踏まえて、2018年（平成30年度）から開始する第2次計画では、第1次計画の方向を引き継ぎながら、これを拡充させていきます。特に、住民主体に加えて、個々の団体の連携を図り、より多くの市民が関わるとともに、「地域が潤う」ための観光まちづくりを進めます。その基本的な考え方を以下のとおり設定します。

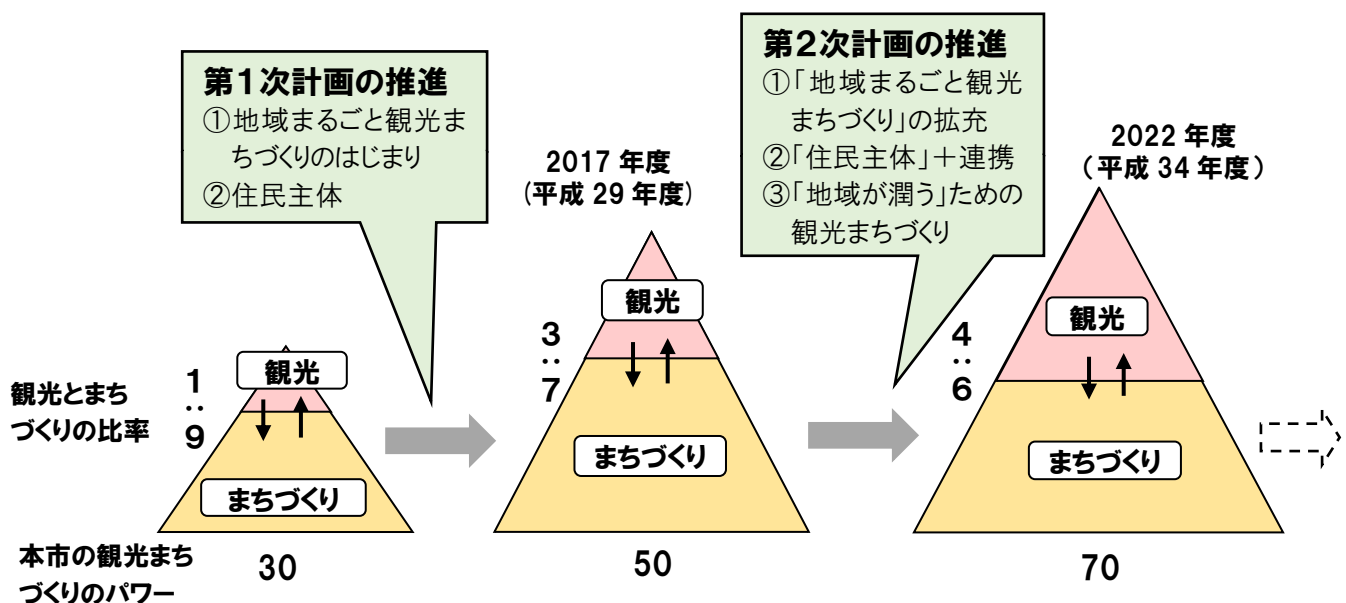
①「地域まるごと観光まちづくり」の拡充

②「住民主体」+連携

③「地域が潤う」ための観光まちづくり

これにより、本市の「観光まちづくり」について、当初は「まちづくり」を重視して開始した考え方を、外への発信や来訪者誘致の視点、儲ける視点など「観光」の考え方も取り入れ、徐々に重視していき、全体として「観光まちづくり」のパワーを向上させていくことをめざします。

下図はそのイメージで、第1次計画によって、「観光：まちづくり」の比率を1：9から3：7にすることにより、観光まちづくりのパワーを30から50へ、そして、本計画である第2次計画によって、「観光：まちづくり」の比率を4：6とし、観光まちづくりのパワーを70にすることをめざします。そして、さらに将来100となることを見通しています。



(2)将来像

近年、消費者の観光への期待は、「みる（見学・鑑賞）」、「する（体験・経験・スポーツ）」、「しる（知的関心を満たす）」、「ひたる（暮らすように旅する）」へ変化しています。特に観光先での地域住民との交流、地域での生活を体験し、市民になった気分ひたる観光が求められており、地域住民との連携した観光戦略が必要です。

本市では、先の基本的な考え方にもあるように「地域まるごと観光まちづくり」の考え方を重視していることから、市全体を「劇場」に見立て、市民や市内の事業者等が「役者」となり、観光客をおもてなしするとともに、さらに観光客が「役者」（市民、市内事業者）と会話し、交流し、体験することで観光客自身も「役者」となり、本市を楽しんでもらい、すべての人が「主役」になるような観光まちづくりをめざします。

特に市内には、戦争遺産であり、平和継承のシンボルともなる「鶉野飛行場跡」があり、その整備・活用に今後力を入れていくこと、そして、市内最大の集客を誇る「兵庫県立フラワーセンター」があり、平和や美しさの象徴の1つとも言える「花」のテーマパークであることも踏まえて、「平和（ピース）」と「花（フラワー）」を将来像のキーワードとして採用しました。

すなわち、本市が、花に囲まれ、美しく、平和で、誰もが笑顔になるような観光まちづくり劇場をみんなが主役になってめざしましょうというイメージです。これを以下のように、本計画の5年後である2020年度（平成34年度）の将来像とします。

加西観光まちづくり劇場 フラワー&ピースフル

2 成果指標

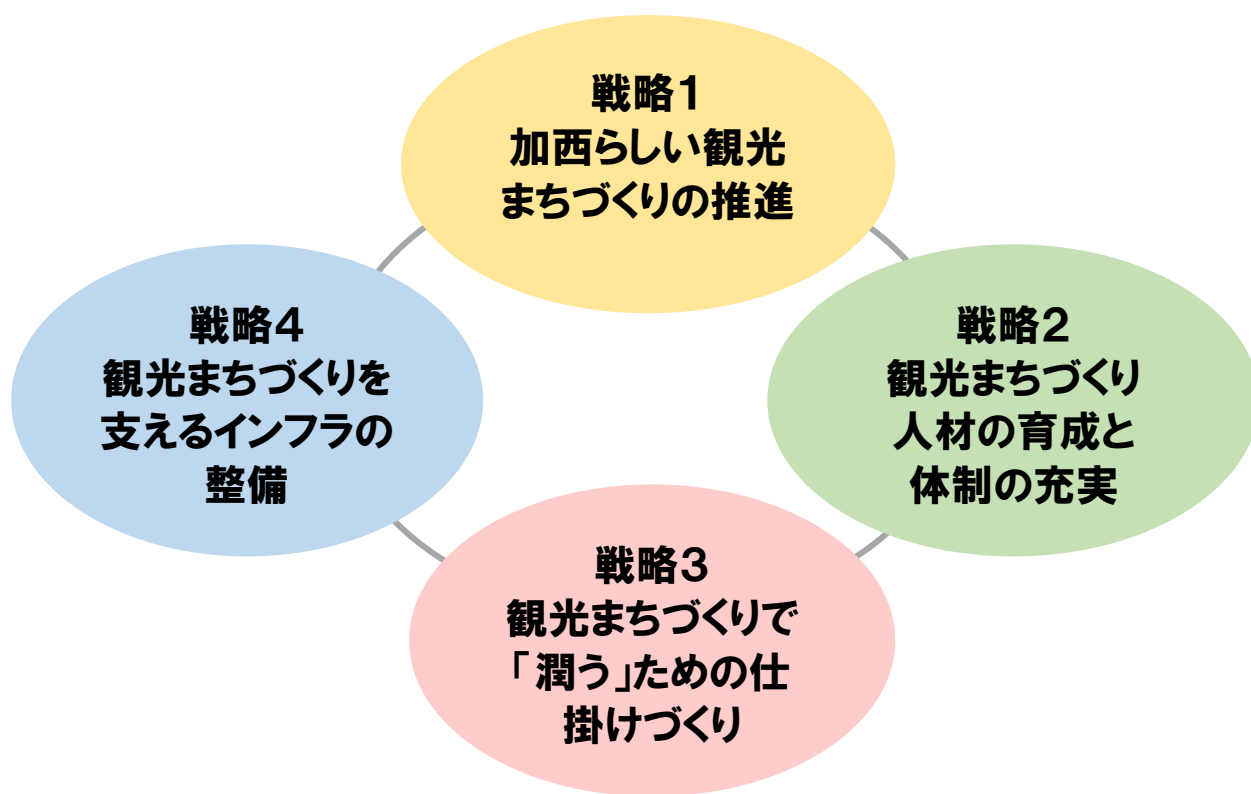
第5次加西市総合計画、地域創生戦略の成果指標を踏まえ、本計画全体の成果指標は、観光入込客数100万人に設定します。

■成果指標

指標	現状値 (2016年 (平成28年度))	目標値 (2022年 (平成34年度))
加西市観光入込客数	87.1万人	100万人

3 将来像実現のための戦略

本市の将来像実現のために、以下の4つの戦略を設定します。



戦略1 加西らしい観光まちづくりの推進

数ある観光地の中から、本市を選んでもらうためには、市内の観光地を見てもらうだけでなく、本市でしか出会えない人との交流、体験をしてもらうことが重要です。今ある観光資源をさらに磨きあげるとともに、新たな観光資源を発掘し、加西らしい観光まちづくりを進めます。

戦略2 観光まちづくり人材の育成と体制の充実

本市に再度訪れてもらうためには、市全体のおもてなしにより、観光客に楽しんでもらう環境づくりが必要です。市民一人ひとりが本市の観光振興の担い手であることを意識してもらうとともに、観光まちづくり人材の育成、受入体制の充実を進めます。

戦略3 観光まちづくりで「潤う」ための仕掛けづくり

観光で市内消費を促すためには、観光客に市内でお金を使ってもらうことが必要です。観光客が「買いたい、欲しい」と思う加西名物の開発、販売拠点の整備等の仕掛けづくりを進めます。

戦略4 観光まちづくりを支えるインフラの整備

観光客に快適に過ごしてもらうためには、観光基盤の整備が必要です。観光客が求める情報を効果的に発信するとともに、訪れてもらった際に必要なサイン整備、公共交通の利便性向上等を進めます。

第4章 戦略ごとの取組内容

戦略ごとの具体的な取組内容は、以下のとおりです。

1 戦略1 加西らしい観光まちづくりの推進

兵庫県立フラワーセンター、北条鉄道、「かさいまちあそび」等の魅力的な観光資源のさらなる充実、新たな観光資源の活用により、何度も加西市に訪れたい観光まちづくりをめざします。

取組	取組内容	取組主体
①「かさいまちあそび」の強化	「かさいまちあそび」のプログラムの充実や秋季以外での開催を検討し、さらなる集客をめざします。	文化・観光・スポーツ課 加西市観光まちづくり協会
②「北条の宿」を活用したにぎわいづくり	播磨農業高校と連携した農家レストランの開設など、「北条の宿」を活用した観光ルートの充実を図ります。	文化・観光・スポーツ課 ふるさと創造課 人口増政策課 農政課 播磨農業高校
③「ふるさと創造会議」と連携した観光まちづくりの推進	農産物を活用した加工品づくりなど、各地区の取組支援を行い、より取組が広がることをめざします。また、「ふるさと創造会議」どうしの連携強化を行い、新たな取組の実現を進めます。	文化・観光・スポーツ課 ふるさと創造課 農政課 関係団体・事業者
④鶉野飛行場跡地周辺の拠点づくり	拠点施設（ミュージアム、地域活性化施設）の整備など、鶉野飛行場跡地周辺の整備を進めます。 拠点施設を活用したイベントの実施などを実施して、にぎわいづくりを演出します。	文化・観光・スポーツ課 都市計画課 人口増政策課 関係団体・事業者
⑤北条鉄道の活用	自転車の持ち込みの試験的な実施、PR強化など、サイクルトレインを推進します。また、イベント列車のさらなるPRなど、北条鉄道の活用推進を図ります。	文化・観光・スポーツ課 人口増政策課 関係団体・事業者
⑥フラワーツーリズムの検討・推進	「花」をテーマにしたアートイベントや花マルシェ（市場）の開催など、「花」をキーワードに市外から来訪してもらう機会を増やします。	文化・観光・スポーツ課 関係団体・事業者
⑦サイクルツーリズムの推進	播磨地域と連携したサイクリングロードのPR強化、市内のレンタサイクルの充実を図ります。	文化・観光・スポーツ課 人口増政策課
⑧インバウンド観光の検討	外国人を対象にしたモニターツアーなど、インバウンド観光の推進を検討します。	文化・観光・スポーツ課
⑨気球を活用した加西市ならではの風景づくり	気球イベントの開催など、気球を楽しんでもらう環境づくりを進めます	文化・観光・スポーツ課 関係団体・事業者

⑩産業観光の検討	市内のものづくり企業と連携し、一般見学、団体観光客等の受入ができる工場見学等の産業観光の推進を検討します。	文化・観光・スポーツ課 産業振興課 加西商工会議所
⑪新たな観光資源の発掘	市内にある青野原俘虜収容所、隠れキリシタン等の新たな観光資源の発掘を進めます。	文化・観光・スポーツ課 教育委員会生涯学習課 加西市観光まちづくり協会

■成果指標

指標	現状値 (2016年 (平成28年度))	目標値 (2022年 (平成34年度))
かさいまちあそび年間参加人数	836人	1,000人
鶉野飛行場跡地観光誘客年間数	8,000人	16,000人

2 戦略2 観光まちづくり人材の育成と体制の充実

観光関連団体だけでなく、市民自身が担い手となり、地域全体のおもてなしの向上を図るとともに、継続的にかかわる観光まちづくり人材の育成をめざします。

取組	取組内容	取組主体
①まち活ゆめ広場での若者人材の育成	「まち活ゆめ広場」を学習の場として活用し、次世代の地域振興を担う人材を育成します。	文化・観光・スポーツ課 ふるさと創造課 加西市観光まちづくり協会
②地域おこし協力隊との連携	特産品開発、イベントの実施、若者との連携の場の拡大など、地域おこし協力隊と連携をさらに強化します。	文化・観光・スポーツ課 ふるさと創造課 農政課
③観光まちづくり関連の起業支援	市内の若者が観光まちづくりへの参画をさらに増やすために、起業に向けた相談、活動経費の助成など、起業支援を行います。	文化・観光・スポーツ課 ふるさと創造課 産業振興課
④観光まちづくり後継者のマッチング支援	市内事業者、観光まちづくりに取り組む団体等の後継者不足解消のため、事業を継ぎたい若者と後継者がいない事業者、団体等のマッチング支援を行います。	文化・観光・スポーツ課 ふるさと創造課 産業振興課
⑤観光ガイドの育成	市内の観光地を訪れた観光客の満足度を高めるために、観光ガイドの育成強化を図ります。	文化・観光・スポーツ課 加西市観光まちづくり協会
⑥市民による語り手ボランティア登録制度の検討	市民によるおもてなしの向上のために、観光客への声かけ、地域の紹介等を行う語り手の募集・登録制度の検討を行います。	文化・観光・スポーツ課 加西市観光まちづくり協会
⑦加西市観光まちづくり協会の体制強化	観光振興を支援する組織体制の充実、観光案内所機能の拡大など、加西市観光まちづくり協会の強化を図ります。	文化・観光・スポーツ課 加西市観光まちづくり協会

■成果指標

指標	現状値 (2016年 (平成28年度))	目標値 (2022年 (平成34年度))
かさいまちあそび主催者数	43団体	50団体
観光ガイド回数	134回	150回

3 戦略3 観光まちづくりで「潤う」ための仕掛けづくり

訪ねてでも買いたい名物の開発、販売拠点の整備により、観光客の市内消費を促すとともに、地域全体の経済活性化をめざします。

取組	取組内容	取組主体
①加西喝采みやげの充実	新たな加西喝采みやげ品の開発支援、販売店舗の拡大など、魅力あるお土産品の充実を図ります。	文化・観光・スポーツ課 加西市観光まちづくり協会 関係団体・事業者
②加西産農畜産物等を活用した名物づくり	加西産農畜産物（加西とまと、ぶどう、酒米、加西ねひめビーフ等）、地域資源（五百羅漢、ねっぴ〜等）を活用した加西名物を開発します。	文化・観光・スポーツ課 農政課 加西ブランド協議会 JA 兵庫みらい 関係団体・事業者
③直売所の充実	市内の農産物直売所の商品の充実、農産物 PR ブースの設置など、加西産農産物の充実を進めます。	文化・観光・スポーツ課 農政課 JA 兵庫みらい その他直売所
④市内飲食店、加西 SA、旅行事業者等との連携	市内飲食店での加西産農畜産物を使った料理の提供、スタンプラリーの実施、加西 SA 等での物産展の開催、PR ブースの設置強化など、市内の民間事業者との連携強化を図ります。	文化・観光・スポーツ課 農政課 関係団体・事業者

■成果指標

指標	現状値 (2016年 (平成28年度))	目標値 (2022年 (平成34年度))
加西喝采ブランド品数	30品目	35品目
加西産農産物提供店舗数	12店	20店
PRブース年間開設数	12	17

4 戦略4 観光まちづくりを支えるインフラの整備

観光客に市内を楽しんで周遊してもらうために、公共交通の充実、情報発信の強化、宿泊施設の活用など、観光インフラの強化を図ります。

取組	取組内容	取組主体
①公共交通の利便性向上	北条町駅、法華口駅から市内観光地を結ぶ二次交通の向上など、地域の足としての加西市内公共交通機関の利便性向上を図ります。	文化・観光・スポーツ課 人口増政策課 関係団体・事業者
②観光プロモーションの強化	ふるさと観光大使「ねっぴ〜」の活用、本市広報誌、観光パンフレットのデザイン統一など、効果的な観光情報の発信を行います。	文化・観光・スポーツ課 秘書課
③宿泊施設の活用	いこいの村はりまなどの市内宿泊施設への誘客、PRなど、県外からの宿泊者の増加につなげます。	文化・観光・スポーツ課 産業振興課 関係団体・事業者
④サイン整備	観光客の利便性向上のために、案内板の設置、パンフレット等への外国語対応などサイン整備を進めます。	文化・観光・スポーツ課 人口増政策課

■成果指標

指標	現状値 (2016年 (平成28年度))	目標値 (2022年 (平成34年度))
フェイスブック「いいね！」件数	1,434件	2,000件
北条鉄道の年間利用者数	340千人	380千人
北条鉄道の乗降客数(定期外)	149千人	200千人
宿泊者数	3.5万人(※1)	5万人

※1 2016年度(平成28年度)の数値は暫定値

第5章 重点プロジェクト

戦略1～4の取組の中から、特にこの5年間(2018年度(平成30年度)から2022年度(平成34年度))で重点的に取り組むものを「重点プロジェクト」として設定します。

1 鶉野飛行場跡地の活用推進プロジェクト

■趣旨

鶉野飛行場跡地周辺は、戦後70年以上経った現在でも防空壕や爆弾庫等が残っています。戦争の恐ろしさ、平和の大切さを伝える場所で、本市にとって貴重な地域資源です。特に、約1.2キロメートルの滑走路は、日本で唯一残っている第二次世界大戦当時の飛行場滑走路です。

観光は「平和」であることが前提であり、観光を通して、本市への来訪者と地域住民が交流し、お互いの笑顔が生まれることがさらなる「平和」につながります。都市再生整備計画(平成27年度～平成31年度)と連携し、鶉野飛行場跡地を集客資源として活用し、幅広い世代の方に訪れて、利用してもらうための取組を推進します。

■内容

(1) 市民、関係団体等が集まったオープン会議の開催

- ・鶉野飛行場跡の今後のあり方、活用方策の検討する会議を開催します。参加者は、市民(地元を含む)を公募する予定です。

【オープン会議での検討事項】

○活用のアイディアの検討

(例)

- ・広大な滑走路を活用した手巻き寿司等のギネス記録への挑戦
- ・花びらを地面に敷き詰めるアートイベントの開催
- ・戦争、平和をテーマにした野外映画祭の開催
- ・ギネス甲子園の開催

(広大な滑走路を活用したギネス記録への挑戦を競う)

○鶉野飛行場跡地の利用ルール、運営方法

○資金調達

○広報

(2) 広域連携

① 周辺市町及び広域での観光連携(姫路市・大分県宇佐市・鹿児島県鹿屋市)

- ・「空がつなぐまち・ひとづくり交流事業」の4市で連携し、加西市と3拠点を結び、資料の相互展示や各市の周遊ツアーを実施、8月15日(終戦記念日)講演会の実施、戦争をテーマにした映画鑑賞会するなどにより、戦争の恐ろしさ、平和の大切さを伝える機会の拡大を推進します。

■プロジェクト展開イメージ

2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度 (平成32年度)	2021年度 (平成33年度)	2022年度 (平成34年度)
○オープン会議の検討・準備 ○広域連携の検討 ○広域協議会の設立	○オープン会議実施 ○活用計画の策定 ○周辺市町等への声かけ・取組検討	○指定管理者募集 ○暫定利用 ○広域連携による取組開始	○運営	



鵜野飛行場跡



鵜野平和祈念碑



地下指揮所跡

2 北条鉄道の活用推進プロジェクト

■趣旨

本市を走る北条鉄道は、兵庫県小野市から加西市を結ぶ 13.6km のローカル鉄道です。車窓からは四季折々の田舎の風景を楽しめるほか、季節限定でかぶと虫列車やサンタ列車など様々なイベント列車を運行しており、観光客から人気を集めています。

本市において重要な観光資源である北条鉄道を活用し、本市への来訪客の増加をめざします。

■内容

(1) サイクルトレインの試験実施

- ・北条鉄道の利用客による持ち込み自転車でのサイクルトレインを試験的に実施します。期間限定での試験実施をめざし、他市のサイクルトレインの事例調査、車両の整備等を行います。

(2) ローカル鉄道サミット(仮称)の開催

- ・ローカル鉄道の推進に取り組む団体と連携し、「ローカル鉄道」、「地域づくり」に取り組む鉄道関係者、有識者等の講演会の開催など、北条鉄道を活かした観光を進めます

(3) 車両を交差させるための線路整備

- ・現在、路線が単線のため、一車両により往復運転を行っています。今後、利用客の利便性の向上のため、車両の行き違い施設を整備し、2列車運行を実施することで、運行本数の増加便や JR 等への接続の改善をめざします。

(4) 鉄道事業者等公共交通機関との連携

- ・都市部から電車で加西市を訪れる場合、山陽本線（JR 神戸線）から加古川線へ乗り換え、JR 粟生駅から北条鉄道に乗り換える必要があり、アクセスの不便さが課題となっています。
- ・これを解消するために、鉄道事業のほか、地域活性化事業に取り組む JR 西日本等公共交通機関と包括的連携協定を結び、本市のプロモーション強化や利便性向上を図り、近隣市町村等からの来訪者の増加をめざします。

【考えられる取組】

(例)

○「北条バル」の開催

- ・加古川線と連携し、北条町駅周辺でチケット型の食べ歩き・飲み歩きイベント「北条バル」を開催します。加古川市民（約 26 万人）をターゲットに加古川駅周辺でバルチケットを販売し、北条鉄道の利用増加をめざします。
- ・北条鉄道の車両内でもお酒を楽しんでもらい、かつ若い女性でも気軽に参加してもらうために、ワイン列車、カクテル列車などのイベント列車を運行します。
- ・JR 加古川駅から JR 粟生駅での乗換時間は、ダイヤによっては約 25 分間かかるため、乗換場所の JR 粟生駅にバーを設置するなど、待ち時間も楽しんでもらうよう工夫します。

■プロジェクト展開イメージ

2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度 (平成32年度)	2021年度 (平成33年度)	2022年度 (平成34年度)
○サイクルトレインの 実施検討・準備	○サイクルトレイン試 験実施の開始	○サイクルトレインの 本格実施の検討		
○ローカル鉄道サミッ ト(仮称)の開催準 備	○ローカル鉄道サミッ ト(仮称)の開催			
○交差設備の整備	○交差設備の整備	—————→		
○JR西日本との連携 検討	○JR西日本との調整	○JR西日本との協定 締結	○JR西日本との取 組開始	—————→



3 フラワーツーリズム推進プロジェクト

■趣旨

本市は気候条件がよく、花き、農産物等の栽培に適しており、市内でも鉢物、切花、花壇用苗木等の生産が盛んです。

市内にある兵庫県立フラワーセンターでは、約4,500種の草花が植えられている全国有数の植物園です。入園者数は約22.5万人（2016年度（平成28年度））であり、市内観光施設の中で最も多い入込客数を誇る市全体にとっても重要な施設です。

兵庫県立フラワーセンター等とともに、市全体を「日本一の花のまち」としてPRするとともに、花の愛好家だけでなく、普段花への関わりが少ない人の来訪増加をめざします。

■内容

(1)花マルシェ(市場)の開催

- ・市内外の花屋を集め、生花、鉢植え、ドライフラワー等を販売する「花マルシェ」を年1回程度開催する。
- ・その他に、「エディブルフラワー（食用花）」を使った料理教室、「花」をテーマにした本、衣類、雑貨を販売する雑貨市など、団体客、家族連れ、カップル等に賑やかに楽しんでもらえるイベントの同時開催も検討します。
- ・開催場所は、兵庫県立フラワーセンター、古法華自然公園等を想定し、バレンタイン（2月14日）、国際女性デー（3月8日）など、家族、恋人、友人等へ花を贈る日に合わせて開催するなど、普段花を贈る習慣がない人にも参加してもらえるよう工夫します。
- ・参加事業者は、市内外の花き関連団体、市内花き生産者、市内高校等へ働きかけを行います。



(2)「北条の宿」花いっぱいプロジェクト

- ・市全体を「花」のイメージを発信するためには、観光客が加西市に降り立ったとき、ぱっと目に付く場所に「花」があることが重要です。
- ・例えば、北条旧市街地の通りや横尾歴史街道などに市民、またはフラワーセンターが育てた花を置くなど、市内を訪れた観光客が「花」を楽しむ機会をつくります。



(3)兵庫県立フラワーセンターへの新たな誘客プロジェクト

- ・ 普段花への関わりが少ない人にもフラワーセンターへ来訪してもらえるよう様々な取組を実施します。

【考えられる取組】

(例)

- 都道府県の花、木コーナーの設置
毎年、全国の都道府県の中から1か所を選び、その都道府県の花、木をPRするコーナーを設置します。また、兵庫県内の市町村の花、木を植えたコーナーを設置し、県内の花が見られる聖地としてPRします。
- 花の育成指導制度の実施
市内外の人を対象に、自分の家では育てられない花をフラワーセンター内でスタッフからの指導を受けながら育てる制度を実施します。
- 花の摘み取り体験、果物収穫体験の実施
- 野菜の花企画展の開催
農業が盛んな本市の特徴を活かし、野菜の花が一体どういう形、色をしているのかを学ぶ企画展を開催します。

■プロジェクト展開イメージ

2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度 (平成32年度) (フラワーセンター45周年)	2021年度 (平成33年度)	2022年度 (平成34年度)
○花マルシェの準備	○花マルシェのモデル実施	○花マルシェの本格実施	→	→
○花いっぱいプロジェクトの準備	○プロジェクト実施	→	→	→
○フラワーセンター誘客プロジェクトの検討	○取り組める内容から随時実施	→	→	→



4 地域が潤う仕掛けづくりプロジェクト

■趣旨

観光の楽しみの1つは「買い物」であり、「その土地でしか買えないお土産」、「訪ねても買いたいお土産」を多く開発することが重要です。しかし、現在、市内には代表的な加西名物、食べる場所やお土産を買う場所がないことが課題としてあげられます。

これを踏まえ、「加西と言えば〇〇！」と、来訪者だけでなく、加西市民も誇りを持って紹介できる名物・お土産品の開発、食べる、購入できる場所の拡大、また、すでに販売されている加西喝采みやげのPR強化等を進めます。

■内容

(1)加西喝采ブランドの開発

- ・市内の各種機関と連携し、加西産農産物、加西の酒等を活用した特産品・土産品を開発します。

(2)加西喝采みやげのPR強化

- ・加西喝采みやげを集め、お中元、お歳暮等でセット販売を行い、少しずつ様々な商品を試してもらうきっかけとします。

(3)市内飲食店でのスタンプラリーの実施

- ・市内の飲食店、スイーツ店に加西産農産物を使った料理、スイーツ等の開発を促進し、期間限定で提供、販売し、集客と売上増強に結びつけます。

(4)加西 SA 施設の有効活用

- ・年間約60万人が利用する加西SAでの加西名物の販売、PRブースを設置し、高速道路利用者、市民の利用強化をめざします。

(5)「トマトのまち加西」プロジェクト

- ・本市の特産である「加西とまと」をPRするために、市内でトマトを使った様々な取組を実施します。

【考えられる取組】

(例)

- 市内飲食店等との連携によるトマト料理の開発・販売
- トマト料理、トマト関連の雑貨などを集めた「トマト祭」の開催
 - ・赤い車で来た人には、商品の割引券をプレゼントなど
- 小学校運動会でのトマトの形をした玉入れ競技、ボール転がしの実施
- 北条鉄道での「トマト列車」の運行
- イベント時に、市キャラクター「ねっぴ〜」がトマトの雑貨を身に付ける。



■プロジェクト展開イメージ

2018 年度 (平成 30 年度)	2019 年度 (平成 31 年度)	2020 年度 (平成 32 年度)	2021 年度 (平成 33 年度)	2022 年度 (平成 34 年度)
○加西喝采ブランドの開発	○加西喝采ブランド販売開始	○加西 SA での販売開始、PR ブースの設置	→	→
○セット販売開始	○スランプラリーの開始		→	→
○スランプラリーの実施準備	○スランプラリーの開始		→	→
○「トマトのまち加西」プロジェクトの検討	○取り組める内容から随時実施		→	→

5 加西を楽しむ体験型プログラム充実プロジェクト

■趣旨

本市では、10月の1ヵ月間の中で「加西の魅力発見」と「加西を巡り楽しむ」をテーマに、事業者自身で企画した約40の体験プログラム「かさいまちあそび」を実施しています。

「かさいまちあそび」をきっかけに、主催者独自のプログラム実施ができており、これらの動きをさらに広げて発展させていくことが重要です。

■内容

(1)プログラムの充実

- ・農産物の収穫体験、工場見学など、本市の地域資源を活かした新たなプログラム主催者の掘り起こしを行います。

(2)秋季以外での開催検討

- ・より多くの人に訪れてもらい、楽しんでもらうために、開催時期の拡大を検討します。
具体的には、春季での開催をめざし、運営するための仕組みの見直し、予算の確保、PR方法等を検討します。

(3)運営事務局の体制強化

- ・かさいまちあそびを継続的に運営するために、行政とプログラム主催者を仲介する人材の確保など、組織体制の充実を行い、運営力の強化に取り組みます。

■プロジェクト展開イメージ

2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度 (平成32年度)	2021年度 (平成33年度)	2022年度 (平成34年度)
○主催者掘り起こし ○秋季以外での開催 検討	○秋季以外での試験 実施	○本格実施	○継続実施	○継続実施



第6章 計画の推進に向けて

本計画の推進にあたっては、戦略ごとに設定した「成果指標」をもとに、現状値や目標値の達成状況を把握・評価します。また、「PDCA サイクル（計画・実行・評価・改善）」に基づき、継続的に計画の進行管理を行います。

1 推進体制の仕組み

■「(仮称)第2次加西市観光推進基本計画推進委員会」の設置

計画を効果的・効率的に推進するためには、行政だけでなく、実際に計画の推進役である関係団体等と一体となった体制の仕組みづくりが重要です。

市内の観光関連団体、学識経験者等で構成する「(仮称)第2次加西市観光推進基本計画推進委員会」を設置します。年2回程度委員会を開催し、計画の進捗状況の検証や必要な施策の検討を行います。

2 市内観光関連団体等との連携・協働

観光施策の実現にあたっては、特に加西市観光まちづくり協会の観光研究会と連携するとともに、市内事業者、市民等の様々な主体と協働し、取組を進めます。